

ギニア月報(2019年6月)

主な出来事

【内政】

- 27日、コンデ大統領主宰閣議にて、ギニア政府は全閣僚総意として、新憲法制定に向けた国民投票の実施に断固として取り組む意思を表明。大統領はテイク・ノートした。

【外政】

- 11日、イドリス・デビー・イトゥノ・チャド大統領はギニアを実務訪問し、コンデ大統領と会談。また、両大統領は、コナクリ市内にて「再生可能エネルギーフォーラム」を開催した。同フォーラムには、ナンディ＝ンダイトワ・ナミビア副首相、マンセルヴィシ欧州委員会開発協力総局長らも出席した。
- 29日、コンデ大統領は、アブジャ(ナイジェリア)で開催された第54回西アフリカ諸国経済共同体(ECOWAS)通常首脳会議に出席。

【経済(経済協力含む)】

- 5日、マガスバ鉱山・地質大臣は、インド鉱山企業アシャプラ社(Ashapura)との間で、ギニア西部フォレカリア県ヨンボイエリ(Yomboyéli)鉄鉱山の再開発等に係る協定に署名。ヨンボイエリ鉄鉱山は2012年よりフォレカリア・マイニング社が開発していたが、2015年に同社は破産し、2,500万米ドルの負債が発生していた。今回アシャプラ社が署名した協定は計3件で、1件目は破産管財人との間の契約、2件目は鉱山・地質省との間の鉱業権に付与に係る契約、3件目はフォレカリア・マイニング社が保有していたコンタ港湾(Konta)を返還しギニア国有資産とする契約。

1 内政

- ・ 11日、コナクリ市ラトマ区の郵便・通信規制庁(ARPT)本部で、第4回デジタル週間の開始式が行われ、コンデ大統領、ディアビー・郵便・通信・デジタル経済大臣等が出席。コンデ大統領は、アフリカ全体のインターネット普及率が50%であるのに対して、ギニアは30%にとどまっており、光ファイバーの敷設状況はルワンダの8分の1程度であると述べ、種子をネット購入できるようになった農家を例に挙げつつ、他分野に貢献するべくデジタル化を政府として推進する決意を表明した。
- ・ 22日、コンデ大統領は大統領令にて、ミカラ・アミナタ・クルマ(投資・官民連携担当省アドバイザー)を通商省次官に任命。同職は、前任のファンタ・シセ現・外務次官の離任後空席となっていた。
- ・ 27日、コンデ大統領主宰閣議にて、ギニア政府は全閣僚総意として、新憲法制定に向けた国民投票の実施に断固として取り組む意思を表明。大統領はテイク・ノートした。

2 外政

- ・ 10日、コンデ大統領は、ガーナ大統領特使として訪問中のオポン＝ンクルマ情報大臣と会談。アクフォ＝アド・ガーナ大統領宛コンデ大統領宛の親書を持参したオポン＝ンクルマ情報大臣は、アフリカ大陸自由貿易圏、特に事務局と本部の設置等について協議した。
- ・ 11日、イドリス・デビー・イトゥノ・チャド大統領はギニアを実務訪問し、コンデ大統領と会談。また、両大統領は、コナクリ市内にて「再生可能エネルギーフォーラム」を開催した。同フォーラムには、ナンディ＝ンダイトワ・ナミビア副首相、マンセルヴィシ欧州委員会開発協力総局長らも出席した。
- ・ 13日、ジュネーブ(スイス)で開催された第18回世界気象会議において世界気象機関(WMO)執行理事選挙が実施され、ギニア運輸省のマドゥ・ラミス・バー氣象局長が、執行理事に選出された。
- ・ 24日及び25日、カリル・カバ大統領府官房長官(閣僚級)は、中国・アフリカ協力フォーラム(FOCAC)関連会合出席のため、北京(中国)を訪問。
- ・ 29日、コンデ大統領は、アブジャ(ナイジェリア)で開催された第54回西アフリカ諸国経済共同体(ECOWAS)通常首脳会議に出席。

3 経済(経済協力含む)

- ・ 5日、マガスバ鉱山・地質大臣は、インド鉱山企業アシャプラ社(Ashapura)との間で、ギニア西部フォレカリア県ヨンボイエリ(Yomboyéli)鉄鉱山の再開発等に係る協定に署名。ヨンボイエリ鉄鉱山は2012年よりフォレカリア・マイニング社が開発していたが、2015年に同社は破産し、2,500万米ドルの負債が発生していた。今回アシャプラ社が署名した協定は計3件で、1件目は破産管財人との間の契約、2件目は鉱山・地質省との間の鉱業権に付与に係る契約、3件目はフォレカリア・マイニング社が保有していたコンタ港湾(Konta)を返還しギニア国有資産とする契約。
- ・ 12日、コンデ大統領は、11日に開催された「再生可能エネルギーフォーラム」の marginsとして、ナンディ＝ンダイトワ副首相、マンセルヴィシ欧州委員会開発協力総局長らと共に、スワピティ水力発電ダム(2020年完工予定)及びカレタ水力発電ダム(2015年完工)を訪問。

(了)